

みんなでつくる〇〇地区 ～自分たちの地域は自分たちで～

平野部の特徴を活かした農業資源を中心とした事業を核として、雇用の確保と収益化、交流による地域づくりを進めます。また、子どもから高齢者までの全員が担い手となって一人一人が持っている力を発揮し、全員参加の地域をつくります。そのために、現在の組織を尊重しつつ、女性・若者の意見を取り入れた全員参加の組織体制を目指します。

20年後の理想像

地域のつながり

- 地域での居場所…人があつまる場所がある、同年代のサークルがある／公民館に人が集まる地域としての繋がりがある
- 家族の形…3世代家族が多い、家族が継続して幸せに暮らす
- 祭・伝統…祭など伝統に触れる機会がある、祭やお店があり盛大
- 生きがい…子ども、大人(高齢者にも)に役割がある、近所に友達がいる

暮らしやすい

- 安全、安心な地区
- 子ども達が外で遊び、歩いている地区
- 大人たちが安心して子どもに名前を呼ばれる地区
- 買い物が地区でできる様なしくみづくり
- 夜道を安心して歩ける地区
- グループホームのような世代交流がある

活用していきたいもの

- スモールオフィス
- IT を活用する

地域の魅力

- 地域そのものに魅力がある
- 自然の豊さを実感できる

空き家問題

- 空き家がない

外部との交流

- シェアハウス(民泊など)がある
- 少しでも若人が集まってきてほしい

人口

- 若い人が多い…若い人がたくさんいる地区／子や孫がＵターンして戻ってくる／子どもの数が維持される
- 移住…移住者の受け入れ体制が整っており、大歓迎できる／移住者が増える

農業継続

- 地域で耕作できる
- 耕作放棄地がゼロ
- 区画整理が順調に進んでいる

稼ぐ

- 地場産野菜などの農産物で稼ぐ
- カフェがある
- 地域で小遣い稼ぎができる場所がある(農産物、手仕事等)
- 働く場所がある

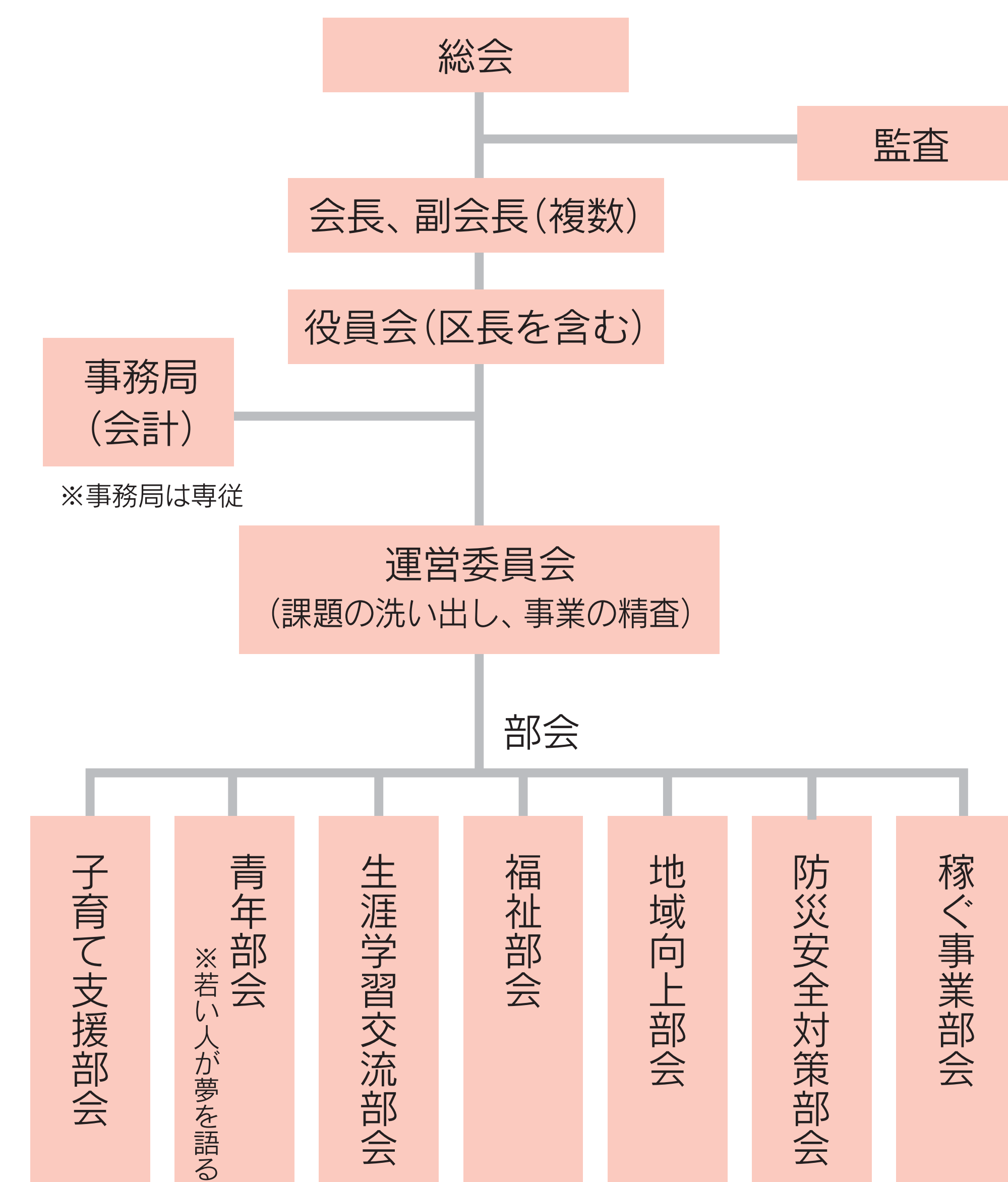
高齢者

- 高齢者が健康で元気
- 孫の結婚式に出席できる
- 高齢者に活力がある
- 共同住宅ができる
- みんな施設に入らず家で
過ごせる

組織

- ※H31にスタートすることとし、ゆるやかに3つの組織を一体化する
- ※定期的に組織の見直しを行うこと
- ※生まれ変わったことを周知するため名称変更(例〇〇地域協議会)

名称：〇〇地域協議会



※部会長、部員の男女比は1：1とする
 ※時間がかわかるが、現状の組織をまず一つに
 ※柔軟な組織体制に配慮する
 ※稼く事業部会、青年部会、子育て支援部会については、特に創設したいと考えた
 ※青年部会は、既婚未婚を問わず35歳まで対象

課題と組織・全員参加の仕組みについて

地域の課題

- ・若者交流の場がない
- ・婦人会の衰退（女性の意見を発する場など）
- ・現行組織の衰退（担い手・なり手不足）
- ・少子高齢化への対応
- ・役員の負担が大きい（区長など）
- ・行政の縦割りによる弊害が地域住民にきている
- ・中高生の地域活動への参加率が少ない

組織の在り方

部会制の導入

- ・ 防災安全対策部会
- ・ 生涯学習交流部会
- ・ 地域向上部会
- ・ 青年部会…若い人が夢を語る
- ・ 福祉部会
- ・ 子育て支援部会…女性・若者参加

必要な取り組み

- ・ 1人1票のアンケート
- ・ 交流の場づくり
- ・ 自分がやりたいことができる地域づくり
- ・ 男女共に参加しやすい組織作り
- ・ 住民の意識づけ
- ・ 住民の意見をきく（アンケートなど）
- ・ 小中学校との連携を密にし、地域活動への参加を促す

全員参加の仕組み

- ・ 1人1票制の住民アンケートの実施
- ・ 中高生を巻き込む仕組みづくり、企画力の向上(学校への働きかけ)

その他

- ・ 公民館(社会教育)の理念の担保 ・ 地区社協の理念の担保

留意点 理念の継続

- | | |
|-------------------|--|
| ・ 公民館(社会教育)の理念の担保 | 現状では公民館、地区社協の職員が様々な研修を受け資質の向上が図られている。 |
| ・ 地区社協の理念の担保 | 新しい組織においても地域に密着した、かつ先を見通した活動ができるような人材の育成が必要。 |

事業

- ◆ 高齢者など要支援者の生活支援事業(通所介護サービスB型)
- ◆ 高齢者宅見守り巡回を兼ねた水道メーター検針事業(雲南市の事例)
- ◆ 資源回収事業(婦人会から地域で実施する体制へ)
- ◆ 手作り(手仕事)商品づくりから販売事業(シニア層を中心とした小遣い程度の稼ぎをイメージ)
- ◆ 地域資源を商品化、販売事業へ(例：葉っぱビジネス)
- ◆ 地域で子どもを育てる事業(とやまっ子さんさん広場)
- ◆ 若者交流事業(場づくり、カフェ、マルシェ)

若者・女性の参画推進の工夫

- 青年部会(男女含む)、子育て支援部会(子育て世代)を設置し、同世代で交流する、参加しやすい場づくりに配慮すべき。
- 組織形成的には、基本的に男女比率 1 : 1 を原則とする。
- 子どもの地域行事へ参加を促す。特に中学生の参加率が低いことから、地域の方から学校にお願いしてはどうか。
- 住民アンケート(1人1票)の実施は重要と思う。

ポイント

やりがいを持って、稼げる地域をめざす。／世代間のギャップが当然ある中で、お互いに理解し合い、否定せず、尊重しながら課題解決を目指す。